

# 宇宙探査に関する広報・教育の取組状況

2026年7月8日

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構

国際宇宙探査センター

- これまでの本ISS・国際宇宙探査小委員会において、持続的な宇宙探査継続のために国民の理解増進や支持醸成は必要不可欠であることや、次世代育成の観点から小中学生を含む幅広い世代への教育・アウトリーチの取組が重要である旨のご指摘をいただいた。
- これを受け、本日は、JAXAにおける宇宙探査に関する広報及び教育の取組状況をご報告する。

## 目次

1. JAXAにおける広報・教育の体制
2. 宇宙探査に係る広報・教育の目指すもの
3. 宇宙探査に係る広報・教育の取組状況
4. まとめ/今後の方向性

(参考：全体方針、地球低軌道活動における人材育成等、各種取組の詳細、等)

# 1. JAXAにおける広報・教育の体制

- まず、JAXAにおける広報・教育活動を推進する全体体制を以下に示す。広報部/宇宙教育推進室と各部門・部署や事業所等が横断的に連携しながらALL-JAXAとして取組を推進している。
- 本日は、この中でも「宇宙探査」に関する広報・教育に焦点を当て、現状の取組状況等をご紹介します。



### 各事業所

- 事業所一般・特別公開
- 事業所に関する取組

### 広報部

- JAXA全体の広報に関する業務
  - ✓ 報道対応及びメディア対応
  - ✓ 広報計画/企画の立案・総合調整
  - ✓ 機構外への情報発信
  - ✓ 宇宙航空に係る理解増進 など

### 宇宙教育推進室

- 宇宙を素材に青少年への教育活動を支援する宇宙教育の推進
  - ✓ 学校教育支援
  - ✓ 社会教育活動支援 など

### 各部門・部署等

- 部門等の業務に関する広報・教育に係る取組

【宇宙探査分野】

- ・国際宇宙探査センター
- ・有人宇宙技術部門
- ・宇宙探査イノベーションハブ
- ・宇宙科学研究所

横断的な会議等によりALL-JAXAとしての取組を実施

## 2. 宇宙探査に係る広報・教育の目指すもの

- 宇宙探査は、宇宙での生活や活動だけに留まらず、地上での生活・暮らしを豊かにする技術・知見・方法を模索し、創出し続けることを目指す必要がある。
- 宇宙探査は、関係者だけで行う時代ではなく、各分野の協力を仰ぎながらその知見と技術を統合し、産官学が一体となって進化させていくことが必須。宇宙探査を通じて地上で生活する次世代も含めたあらゆる人々に恩恵をもたらすことを目指し、多分野からの協力・協調を基盤として活動を進めていく必要がある。

### < 宇宙探査の目的 > (日本の国際宇宙探査シナリオ案より)

#### グローバル課題解決：

人々が直面する課題を解決し、  
現状のマイナスをなくす

エネルギー不足、食糧問題、難病治療、災害対応等

#### わくわく創造：

新たな価値と喜びを創出し、生活を豊かにして、現  
状をプラスに転じる

知の創造、活動拡大、宇宙旅行、エンタメ 等

### < 宇宙探査における広報・教育の目的 >

宇宙探査は長期的かつ従来コミュニティだけでは実現できない取組であり、

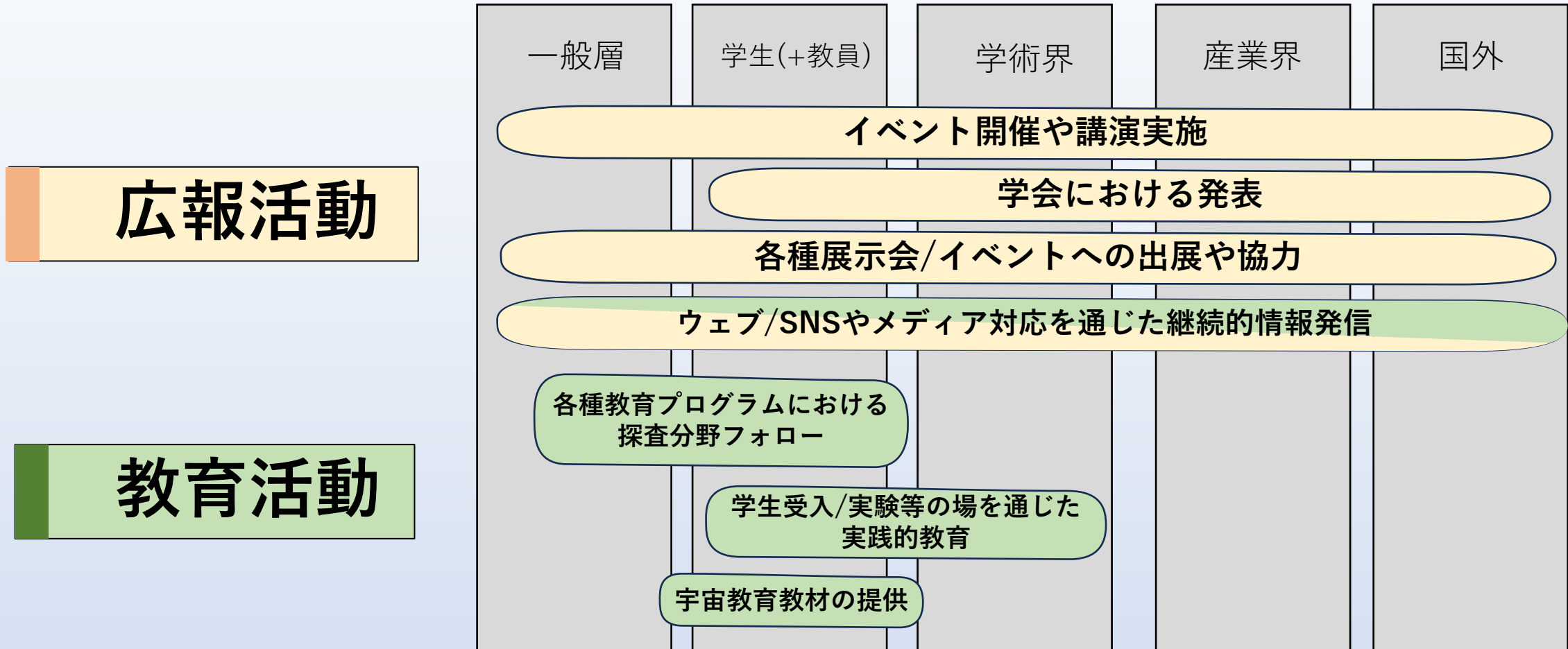
2030年代の宇宙探査本格化に向けた認知向上や理解増進と、

2040年代の商業活動を含む探査活動に向けたプレイヤー拡大（将来人材育成を含む）

を推進していくことが重要

### 3. 宇宙探査に係る広報/教育の取組状況(1/5) –全体像

- 宇宙探査に係る広報・教育の取組状況の全体像を以下に示す。多様なターゲットへの発信・連携を通じ、社会全体で宇宙探査を支える基盤形成を目指している。



### 3. 宇宙探査に係る広報/教育の取組状況(2/5) – 主な取組例

以下の取組により、専門家・関係者間での情報共有や議論の深化に加え、一般層や若年層を含む幅広い層に対して宇宙探査の意義や取組内容を多面的に発信をしている。宇宙探査への関心の広がりや認知向上に寄与するとともに、将来に向けた人材育成や継続的な理解醸成を図っている。 主な取組の結果概要等は【参考】をご参照。

<p>イベント開催や講演実施、学会における発表</p>	<p>■<b>具体例</b>：JAXA主催イベント(国際宇宙探査シンポジウム、宇宙探査オープンイノベーションフォーラム、LUPEXや有人与圧ローバーに関するWS、JAXAシンポジウムでの探査取り上げ、子供向けのイベント/WS等)を実施。国内外での講演や学会において、積極的に成果等の発表を実施。</p> <p>■<b>効果</b>：<b>宇宙探査に関する最新動向やJAXAの取組について、幅広い層との情報共有・意見交換</b>を行い、宇宙探査への理解促進を図るとともに、将来の協力や連携に繋がる関係者とのネットワーク形成に繋がった。(例：国際宇宙探査シンポジウムでは参加者の満足度95%を獲得。建設・土木系企業等の非宇宙業界からの参加も得た。)</p>
<p>各種展示会/イベントへの出展や協力</p>	<p>■<b>具体例</b>：他機関による各種展示会/イベントへの出展や協力を実施。「<b>大阪・関西万博</b>」における<b>常設展示の実施、海外機関との共同イベント実施。「深宇宙展※」への協力等</b>。※主催：日本科学未来館、NHK、NHKプロモーション、東京新聞</p> <p>■<b>効果</b>：宇宙探査の意義や日本の貢献について幅広い層へ発信し、国民の理解醸成に寄与。(例：万博においては総来場者数326,109人。来場者アンケート満足度99%、月面探査への興味関心が高まったと答えた方が9割以上。また、来場者のうち偶然訪れた方が6割と、20万人近くの新規層への理解増進に大きく寄与。)</p>
<p>ウェブ/SNSやメディア対応を通じた継続的情報発信</p>	<p>■<b>具体例</b>：<b>ウェブ/SNSやメディア対応を通じ継続的に情報発信</b>を実施。直近の例では、「<b>日本の国際宇宙探査シナリオ案2025</b>」の公開にあわせて<b>継続的な情報発信を実施し、多数の閲覧者へリーチ</b>した。</p> <p>■<b>効果</b>：定常的/継続的な情報提供や関心層の拡大に寄与。(例：探査シナリオはSNSのpv数を17万回以上獲得。)</p>
<p>教育活動による次世代育成への貢献</p>	<p>■<b>具体例</b>：<b>宇宙教育教材(*3)や各種宇宙教育プログラム</b>において宇宙探査分野を取り扱っている。<b>例えば「かぐや」が取得したデータをもとにしたデジタル教材である「ルナクラフト」</b>を用いて、実証授業(FY25: 6件)やイベント出展(同:6件)も実施。また、<b>学生受入制度</b>のもとで大学院生等の教育を行っている他、<b>科学探査の分野では、観測ロケット開発や大気球実験の場を通じて、若手研究者や学生に対する実践的教育・人材育成も実施</b>。<small>*3 JAXA宇宙教育センターHPにて公開 <a href="https://edu.jaxa.jp/materialDB/index.html">https://edu.jaxa.jp/materialDB/index.html</a></small></p> <p>■<b>効果</b>：学生等や教育現場にもリーチしつつ、開発や実験の場を通じて実践的教育を実施することで、STEAM教育の実践及び次世代の人材育成に貢献。</p>

# 3. 宇宙探査に係る広報/教育の主な取組状況(3/5) -取組の様子



最近の主な取組例の様子を以下に示す。



▲大阪・関西万博に出展したJAXA常設展示ブース(25年4-10月)



NHK提供

▲深宇宙展での有人圧ローバーの実物大模型展示  
(25年7-9月東京、25年10月-26年1月名古屋、26年7-8月仙台)



▲月探査の街づくりを考える小中学生向けWS(25年2月)



▲大阪・関西万博におけるスイス館での探査イベント  
(ISAS藤本所長による発表の様子)(25年6月)



▲大阪・関西万博におけるSLIM紹介/SORA-Q  
操作体験WS(25年7月)



▲大学院生等に向けた科学探査分野(観測ロ  
ケット開発)における現場での実践的教育



▲デジタル教材(マイクラで月面を再現したルナクラ  
フト、HTV-X等を素材にしたプログラミング教材)

# 3. 宇宙探査に係る広報/教育の主な取組状況(4/5) –各ミッションの今後の取組等

月・火星探査における次の各ミッションに関する「今後/進行中/最近の取組」は以下のとおり。

## 火星衛星探査計画 (MMX)

2026年度の打上げを見据え、MMXへの関心と理解を社会に広げるとともに、社会的機運の醸成に向けた広報施策を継続・展開している。また、国際的な広報の観点においても、海外の協力機関には積極的に情報を共有し、各機関からの発信を独自に進めることを促すような形ですすめている。

### ●MMX広報アンバサダー

JAXA宇宙飛行士・米田 あゆ、諏訪 理が就任。両飛行士による積極的な情報発信を推進。特に米田飛行士はSNS (X) にて「米田のMonday Morning X」として継続的に情報発信を継続。今後、諏訪飛行士の宇宙滞在とMMX往路巡航期の連動により、有人宇宙活動と火星圏探査のより一層の相乗効果を創出する。

### ●MMX 応援キャンペーン「#グッドラックMMX」

広く応援メッセージを募集。探査機に搭載し、採取したサンプルとともに2031年に地球へ帰還予定。ミッションへの参加機会を創出し、認知拡大と機運醸成を推進。(募集期間：2025/11～2026/2)



▲MMX広報アンバサダー



▲MMX応援キャンペーン

### ●体験型演劇「Mission In The Dark」開催

相模原キャンパスを巡りながら物語に参加する体験型演劇。従来、宇宙科学との接点が薄かった層にもリーチした。応募は2,222組3,891名(倍率27.8倍)に達し、アンケートでは約9割以上がISAS初来訪、宇宙への関心が高まったと回答。メディアやSNS等でも大きな反響を得て、機運醸成に寄与した。(2026年4月実施、公式X投稿：85万PV)

### ●民間の自発的な取り組みへの協力

民間事業者によるMMX探査機1/2模型やドーム映像作品の制作、大型企画展「深宇宙展」等の展示・イベントに、データ提供、監修等で協力。民間ならではの表現力・集客力と、JAXAによる正確性を組み合わせることで、MMXの魅力や意義を多様な形で伝えている。こうした取組を通じ、JAXA単独では届きにくい来場者層や非宇宙分野との接点を形成し、MMXへの関心拡大と将来探査を支える裾野拡大を図っている。



▲体験型演劇「Mission In The Dark」(26年4月)



▲株式会社ギガスターが制作したMMX1/2模型

# 3. 宇宙探査に係る広報/教育の主な取組状況(5/5) –各ミッションの今後の取組等

月・火星探査における次の各ミッションに関する「今後/進行中/最近の取組」は以下のとおり。

## LUPEX、有人与圧ローバー

日本/JAXAが月探査において果たす役割を発信していくため、LUPEXや有人与圧ローバーの広報活動に一層注力する。

### ●露出機会の活用による理解増進

ISS長期滞在ミッション報告会※等の注目される機会を活用し、LUPEXや有人与圧ローバーでの月面への挑戦について発信し、接触機会の拡大と理解増進を図る。（※2026年度中に6回開催予定）

### ●情報発信基盤の強化

月探査における我が国の役割や技術的意義を分かりやすく示すため、特設サイト等を整備し、情報発信基盤を強化する。



▲油井宇宙飛行士のミッション報告会での質問コーナー・展示の様子(26年5月)



↓ LUPEX模型

↑ 有人与圧ローバー模型

### ●各種イベント等の実施/展示協力

・P.6の関西・大阪万博や深宇宙展における展示等に加え、2025年9-10月に開催された国際宇宙会議(IAC)等の機会を捉えてLUPEXや有人与圧ローバーに関する展示を実施。

・2025年4月には、第6回目のLUPEXに関するワークショップを開催し、産学官からの幅広い参加者(約250名)を交え、月での資源探査の可能性等について議論を行った。

・関西・大阪万博では、展示の他、LUPEX及び有人与圧ローバーそれぞれをテーマとして取り上げたトークイベントを実施。従来、宇宙探査との接点が薄かった層にもミッションの意義やアルテミス計画の中で日本が担う役割等について情報発信を行った。



▲LUPEXワークショップの様子(25年4月)



▲万博におけるトークセッション(25年8月)

## 4. まとめ/今後の方向性

- JAXAでは、宇宙探査に関する社会の理解増進や次世代育成等を目的に、関連部署間で連携しながら、横断的かつ多面的に教育・広報活動を実施。
- 各部署の専門性を活かしつつ、多様なターゲットに対し、それぞれに応じた手段・内容を展開すべく取り組んでいる。ウェブサイトやSNS等のデジタル媒体に加え、イベント/展示や教材等で幅広い層にリーチすることで、宇宙探査への理解増進や教育効果の向上など着実な成果が得られているところ。
- 今後、月・火星探査ミッションが本格化するにあたり、国内外の動向やミッション進捗を踏まえ、国内外への発信を一段と強化していく。社会の理解増進を着実に推進し、将来の探査活動を支える次世代育成を一層加速していく。



# 【参考】

# (参考1-1) 宇宙探査の広報・教育に係る全体方針(1/2)

## JAXA 第5期(R7~14年度)中長期目標より抜粋

※太字・下線は今回加筆

### 5. 3. 社会の理解増進及び次世代を担う人材育成への貢献

機構は、以下(1)及び(2)の取組を通じて、機構の事業に対する社会の理解を増進するとともに、次世代を担う人材育成に貢献する。

#### (1) 社会の理解増進

産学官含む様々なプレイヤーとも連携し、適時・適切に真摯な広報活動を行うことで、我が国の宇宙航空事業及び機構を取り巻く環境の変化を踏まえ、多様化する社会に対応する。宇宙航空事業を推進する意義と、創出した成果及び今後創出する成果の価値と重要性を広く国内外へ浸透させるとともに、一層深い理解を増進する。

#### (2) 次世代を担う人材育成への貢献

未来社会を切り拓き、急速な情報化や技術革新、グローバル化等の社会変化に適応できる人材を育成する。具体的には、機構の研究開発を通じて得た成果や知見を広く教育の素材として活用し、幅広い層の学習者と学習支援者に対して、学校教育支援、社会教育活動支援及び体験的な学習機会の提供を行うことで、宇宙航空分野への興味関心を増進するとともに、多角的なもの見方・考え方や自律的、主体的、継続的な学習態度等を醸成する。

### 1. 4. 地球低軌道・月面における持続的な有人活動

機構は、産学官の多様な機関や人材が地球低軌道・月面における持続的な有人活動を担うための基盤構築の実現に向けて、地球低軌道から火星を含めた月以遠までの領域において、これまでの科学コミュニティ等との連携を維持・発展しつつ、地上で獲得してきた優れた技術を活用しスタートアップや非宇宙産業を含む多様な民間事業者や異分野の研究者の参画を促進し、国際競争力強化に貢献する。また、広く国民の理解と支持を獲得するため、得られた成果を広く公表し、効果的な広報・普及に努める。(以下略)



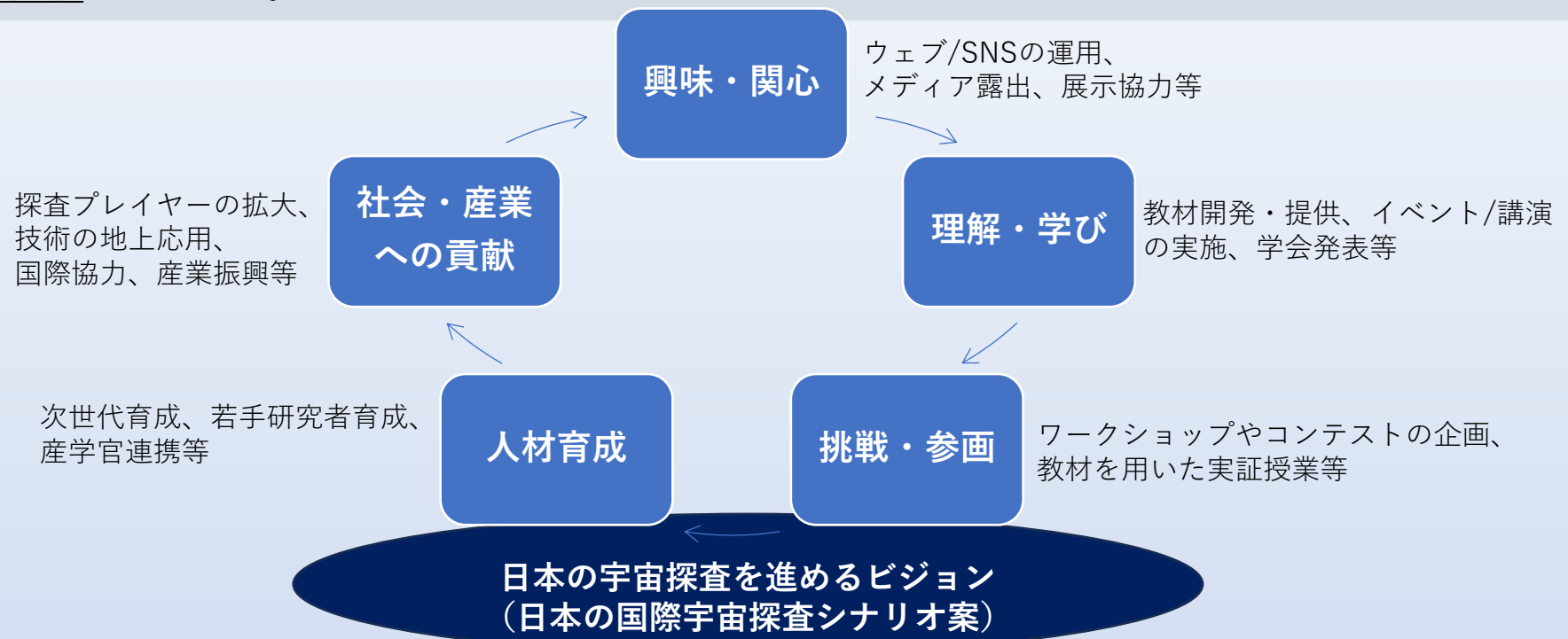
社会の  
理解増進

次世代の  
人材育成

に資するよう広報・教育活動を実施

# (参考1-2) 宇宙探査の広報・教育に係る全体方針(1/2)

- 宇宙探査に関する広報・教育活動については、
  - 宇宙探査活動の認知向上や理解増進から、宇宙探査プレイヤー拡大や人材育成への貢献までを一連の流れとして捉え、次世代へ循環する仕組みづくりを重視。
  - 一般層/学術界/産業界/国際機関等との連携を通じ、宇宙探査を社会全体で支える基盤形成を目指す。
- 2025年11月に公開した「日本の国際宇宙探査シナリオ案2025」において、日本の国際宇宙探査を進める方向性の案をJAXAとしてまとめており、広報・教育活動についても、こうした探査の将来像に関する共通的理解を念頭に置きつつ、次世代人材育成や国民理解醸成に向けた取組を推進していくこととしている。
- 今後の月・火星探査における広報や教育の取組に際しては、これまで地球低軌道分野で蓄積してきた広報/教育や人材育成の知見・実績を活用し、発展させていく。



# (参考2) ISSを含む地球低軌道活動における人材育成等



地球低軌道活動に関する具体的な取組のうち、将来の宇宙探査に向けた人材育成にもつながる主な事例を以下に示す。

**アジアントライゼロG** \*Kibo-ABCイニシアティブ(きぼうを利用したアジア協力の枠組)の一環で実施

軌道上での簡易実験アイデアを、アジア・太平洋地域の青少年を対象に募集し、選定された実験をISS長期滞在の宇宙飛行士が「きぼう」で行うプログラム。これまで9回実施しているが、回を追うごとに参加者数が増加、第9回では9か国・地域から1,176名、500件の応募。



▲きぼう運用管制室から参加するアジアの学生(26年3月)



▲「きぼう」日本実験棟内での実験の様子(26年3月)

**「きぼう」ロボットプログラミングチャレンジ** \*Kibo-ABCイニシアティブの一環で実施

ISS船内ドローンであるInt-Ball2(JAXA)とAstrobee (NASA)のプログラミングを通じた教育プログラム。科学技術/工学/数学のスキル教育やグローバル人材育成に寄与。これまで6回実施し、回を追うごとに参加者数が増加、第6回では39か国・地域から738チーム・3,082人が参加。



▲第6回競技会における軌道上決勝大会の様子(26年2月)

## 「きぼう」利用シンポジウム

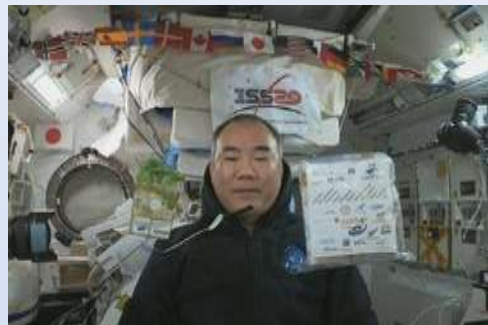
地球低軌道から今後の有人宇宙探査への繋がりも意識し、低軌道から月周回・月面利用/活動への展開を含む宇宙探査活動に関するセッション等も実施。

**アジアの種子** \*Kibo-ABCイニシアティブの一環で実施

アジア・太平洋地域の若手研究者や青少年に、宇宙実験や宇宙環境利用研究について学ぶ機会を提供するプログラム。過去3回にわたり、「きぼう」から地上に戻った宇宙の種を育てる貴重な機会を提供する等、人材育成に寄与。のべ45,000人以上が参加。



▲宇宙探査に関するポスター展示(24年2月)



▲第3回(2020-21年)ではハーブを「きぼう」で栽培。またアジア諸国から提供された種子を「きぼう」に保管した後、地上に回収。



▲回収された種子は各国に返還。各国学校にて種子を用いた地上実験を実施。(写真は2013年の第2回の様子)

## 交信企画を通じた人材育成等

「きぼう」の宇宙飛行士と地上会場との交信企画において、微小重力解説や青少年との交流を通じて、理系人材育成やキャリア教育等に貢献。



▲高校生向け大西宇宙飛行士による校外学習(25年4月)



▲大西宇宙飛行士による航空宇宙教室(25年6月)



▲油井宇宙飛行士による防衛大学在校生や小中高生との交信(25年11月)

# (参考3) 大阪・関西万博における展示 結果概要

1. 日時：2025/4/13～10/13（万博全会期）
2. 場所：フューチャーライフエクスペリエンス（FLE）エリア B1会場
3. 概要：
  - 大阪・関西万博においてJAXA単独の常設展示ブースを出展。展示テーマは「月に立つ。その先へ、」とし、我が国の月面探査の現在及び未来の姿を展示コンテンツを通じてリアルに体験できる展示内容とした。
  - 没入感を重視し、縦3m×横10mの大型かつ高精細なLEDカーブビジョンでの月探査に係る映像の上映及び映像と連動した模型（有人と圧ローバー、SLIM、LEV-2、LUPEX）を展示。
  - 会期中3回、常設展示ブースを活用したトークイベント「月に立つ。その先へ、Special Talk Session」を実施。
4. まとめ：
  - 総来場者数326,109人。連日、ブースのキャパシティ上限の来場実績があった。
  - 来場者アンケートは満足度99%、月面探査への興味関心が高まったと答えた方が9割以上と極めて高く、うち偶然訪れた方6割と、20万人近くの新規層への理解増進に大きく寄与した。
  - 特設サイト、SNS、YouTube等オウンドメディアによる情報発信を行い、会場外でも理解増進機会を提供した。
  - LEDカーブビジョン及び各模型については、JAXA展示施設（筑波、白田）に移設し公開中。



# (参考4) JAXAシンポジウム2025開催結果

1. 日時：2025/9/19(金) 18:00～21:05
2. 場所：大阪工業大学梅田キャンパス常翔ホール（10/6～アーカイブ配信）
3. 概要：
  - キャッチフレーズ：超えろ 月 ねらえ 無限の宇宙
  - 大阪・関西万博のJAXAブースとの相乗効果を目的として、**初の大阪開催**とした。
  - **万博ブーステーマの「月に立つ。その先へ、」とリンクさせ、更にその先、月を超えて、火星、小惑星へと広がる事業活動に焦点を当て、H-IIAからH3、HTV-X、宇宙飛行士、MMX、プラネタリーディフェンスを取り上げた。**
4. まとめ：
  - **来場者数：460名**
  - 従来は50代・40代が中心だが、今年は50代に次いで20代の参加者が多かったことが特徴的。
  - プラネタリーディフェンスや火星衛星探査に新たに興味を持ったという声が多く見られた。
  - 10代を中心に、将来の進路を考える上で役に立った、勉強を頑張りたいというものや、初心者でも話がわかりやすく面白かった、今後もJAXAを応援したい、大阪（関西）で再度の開催を希望するなどの声も多数。



## (1) 開催概要

- 開催場所：科学未来館
- 開催日程：2026年1月15日（木） 13:00-16:40
- 形態：対面  
JAXA公式YouTubeにてアーカイブ配信中  
<https://youtu.be/GecOMRk7Im8>

## (2) プログラム概要

- スペシャルトークセッション（NASA/Fox科学局長及びGlaze探査局長代行によるビデオメッセージを含む）
- 「日本の国際宇宙探査シナリオ案2025」の講演とパネル
- 探査ミッションを支える人のクロストーク など

## (3) 結果報告

- 当日参加者：139名
- アンケート結果：参加者の満足度95%  
(回答者のうち、「とても満足」または「どちらかといえば満足」と答えた比率)
- アーカイブ配信：視聴3000回以上（6月末現在、2/5公開）



# (参考6) 宇宙探査オープンイノベーションフォーラム 結果概要

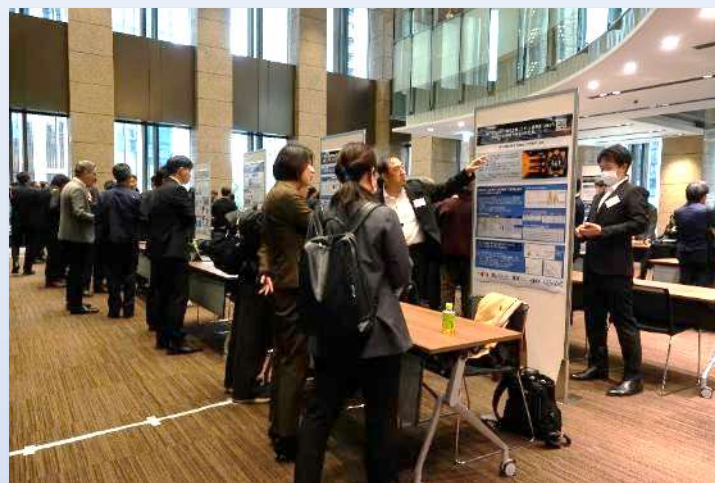


- 日時：2026年2月26日（木）13時～17時15分
- 主催：JAXA宇宙探査イノベーションハブ
- 会場：SMBCホール（大手町）・オンライン（Zoom）

- JAXA・アカデミア・民間企業を交えて、持続的な探査活動の実現に向けて議論する機会を設けることで、産学官が一体となって取り組んでいくための機運を醸成することを目的に開催。
- 宇宙探査における日本の取組み状況とともに、JAXA宇宙探査イノベーションハブのMoon to Mars Innovation (MMI) 制度やその活動の成果等について紹介。
- その他、次回RFI14のビジョン紹介、探査センター、LUPEXチームの登壇、また、共同研究成果計20社にも成果紹介のため登壇いただいた。現地参加221名、オンライン459名（常時200名）の参加となった。



登壇等



研究成果ポスター展示



名刺交換会

# (参考7) 宇宙教育活動

「宇宙が子どもたちの心に火をつける」を合言葉として、主に青少年層をターゲットとした宇宙教育活動の中で、宇宙探査関連を取り上げている主な例は以下のとおり。

## 宇宙を素材とした教材提供



宇宙を題材とした、学校でも使用できる教材を提供することで、青少年の科学的関心と探究意欲の喚起を図る取組。上ははやぶさ2を題材とした道徳教材

## JAXAアカデミー



←6/26にはMMXをテーマにした回を開催

高校生～大学1・2年生を主な対象とした、宇宙航空の専門家によるウェブセミナー。事前課題・ホームワークを設定し、より深い学び並びにキャリア教育へ貢献

## デジタル教材：ルナクラフト

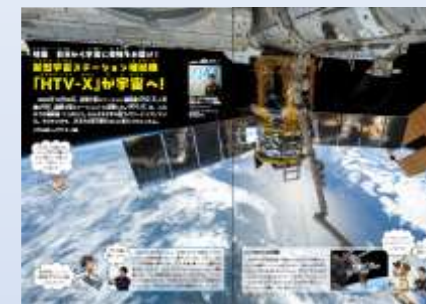


ワークショップの様子

子どもたちがワークショップで作成した月面ホテル

月面開発を題材としたデジタル教材により、主体的・協働的な学びを促進する取組

## 宇宙教育情報誌：『宇宙のとびら』



宇宙航空の情報を分かりやすく発信する年4回発行の宇宙教育広報誌。全国の科学館・図書館での配架、HP掲載の他、タブレットでの学習支援サービスにも実装